



YA本研究会だより

2017.12

Vol.5

…祭りの後の“日常”…

今年のメインイベント「ブックカフェ」を成功させたメンバーが、およそ2カ月ぶりに集まりました。「え〜っと、私たちいつも委員会でも何してましたっけ!？」と言わんばかりに、アしも忘れたコしも忘れたと、「ごめんね」を連発する司書とは違い、みんなちゃんと展示用の資料も持参、中にはわざわざ事前に届けてくれた委員もいて…。活動の回数を重ねるごとにどんどん仲良くなっていき、会話が弾みまくっているみんなに「はじめよ」の声をかけられない初参加の司書Sさんの様子に中高生が気づいてくれて、ようやく今回のビブリオバトルが始まりました。ふたを開けてみれば、ナント大豊作の会となりました。歴史や理科を学べる本、動物の生態がわかる本、世界の情勢について考えられる本、長く読み継がれている絵本、女子の怖い裏側がのぞける本、救いの物語あり、恋愛ありと、全員が「どれも絶対読みたい! 1冊なんて選べない!」と悲鳴をあげ、「これはもう全部リストに載せるしかない」との結論に達した次第です

バラエティに富んだ、すでに掲載決定の本たちは…

- 「空想科学「理科」読本」《理科》
- 「かがみの孤城」《救いの物語》
- 「カエルの楽園」《世界の情勢を考える》
- 「ボカロで覚える中学歴史」《歴史》
- 「猫のしもべとしての心得」《動物の生態》
- 「おにぎり」《絵本》
- 「告白予行練習 ハートの主張」《女子の怖い裏側》
- 「夜が明けたらいちばんに君に会いにいく」《植物図鑑》《恋愛》

その中で誰もが納得の、表紙を載せる本は…

「カエルの楽園」百田尚樹/著

新潮社 2016.2 ¥1,300 (F七) 所蔵:本館・二女館・志摩館



《内容》

安住の地を求めて旅に出たアマガエルのソクラテスとロベルトは、平和で豊かな国ナパージュに辿り着く。そこではツチガエルたちが奇妙な戒律を守り穏やかに暮らしていた。だがある日、平穏な国を揺るがす大事件が起こる。

《おすすめのポイント》

何度も危険な目に合いながらも、ようやく辿り着いた「安住の地・ナパージュ」。そこで暮らすカエルたちはみんな親切で平和に暮らしています。今まで旅してきた国とはまるで違うこの国の様子に、はじめは「すばらしい!」と思っていた二人ですが、やがて危機が訪れた時ツチガエルたちが口にする「ナパージュには「三戒」があるから大丈夫」という言葉に違和感を覚え…。なんだかどこかの国の未来を予感させるような展開に、心がぞわぞわしてきます。母国が危機に瀕した時、自分には何ができるのか、また何をすべきなのか…。カエルの国が、そのヒントをくれるかもしれません。

…それ、なんのこと??…

今回のビブリアバトル中の中高生と司書の会話一。

ケース①

中高生:「この本はボカロの曲に合わせて歴史を覚える本で…」

司書:「へえ、ボカロでねえ…」

(と言いつつ実はわかってない。それどころか本の表紙を見た時、読みが「ほかくち」か「ほかろ」か悩んでいた)



ケース②

中高生:「この本はハニワの本で…」

司書:「ふ〜ん…」

(頭の中では「ハニワ」の漢字変換をしていた。「埴輪」?それとも「埴」?)

やがて、中高生のするどいツッコミが飛んできました。

「全然わかってないでしょ!」

「絶対ハニワを  と思ってるでしょ!」

はい、そのとおりです…。ということで、私たち司書がわからなかった用語を説明してもらいました。「そんなことも知らないの!?!」とお怒りの向きもありましょうが、しばしお付き合いを。

★ボカロ★

正式名称:ボカロイド(VOCALOID)

某企業が開発した音声合成技術およびその応用製品の総称だそう。」「初音ミク」なら聞いたことあるでしょ。アしですよ」との先生方の声に、やっとわかる言葉に出会え、ホッとしました。ボカロで作られた曲も、今ではたくさんあるそうです。

★ハニワ★

正式名称:ハニーワークス(HoneyWorks)

動画投稿サイトで活動する日本のクリエイターユニットだとのこと。ボカロを使って作った曲をたくさん発表しており、さらにその楽曲を小説化した本も出版されていて、とても人気があるらしい。今回紹介された「告白予行練習 ハートの主張」も、そのうちの1冊。先生方曰く、「曲を聴いて本を読んだほうがより楽しめる」らしいので、初心者としてまずはそこから始めてみよう、と思っている生徒(司書)たちです。

日進月歩の世の中、司書たるもの広く物事を知ること仕事のうちです。YA本研究会は、新しい知識を得ることのできる場ともなっています。

